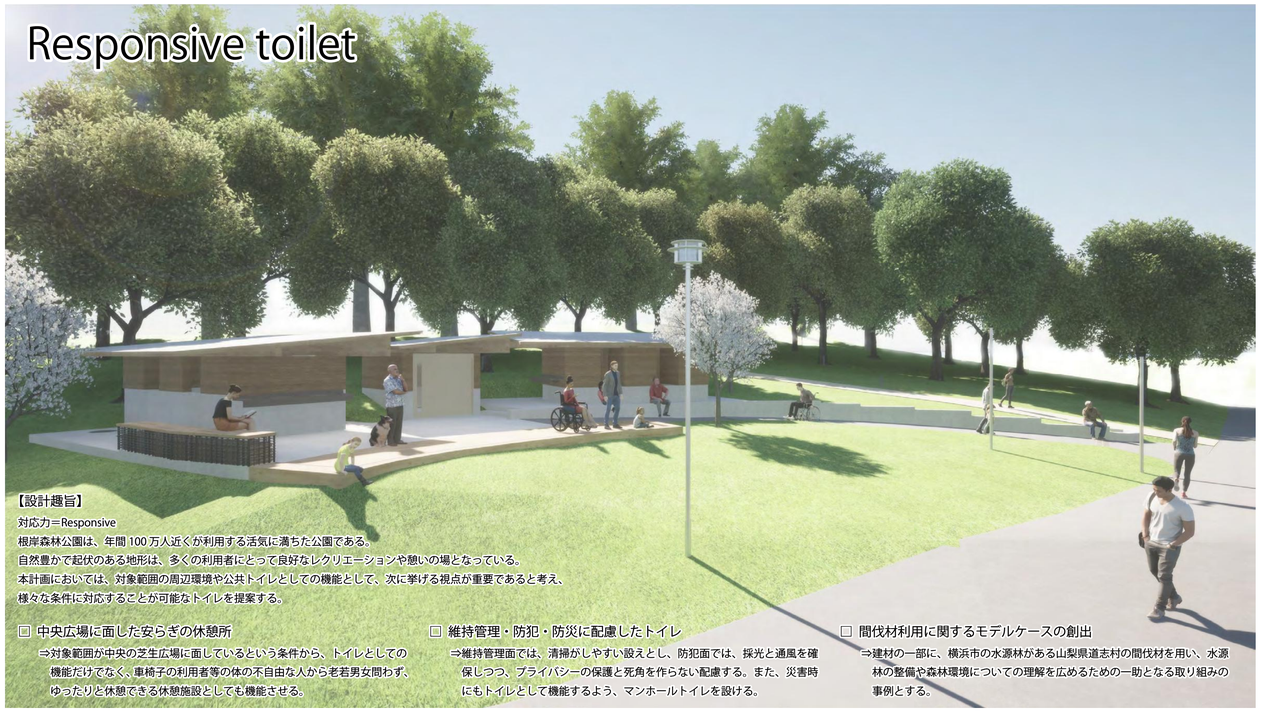
Responsive toilet

0444



【設計趣旨】

対応力＝Responsive

根岸森林公園は、年間 100 万人近くが利用する活気に満ちた公園である。
自然豊かで起伏のある地形は、多くの利用者にとって良好なレクリエーションや憩いの場となっている。
本計画においては、対象範囲の周辺環境や公共トイレとしての機能として、次に挙げる視点が重要であると考え、様々な条件に対応することが可能なトイレを提案する。

□ 中央広場に面した安らぎの休憩所

⇒対象範囲が中央の芝生広場に面しているという条件から、トイレとしての機能だけでなく、車椅子の利用者等の体の不自由な人から老若男女問わず、ゆったりと休憩できる休憩施設としても機能させる。

□ 維持管理・防犯・防災に配慮したトイレ

⇒維持管理面では、清掃がしやすい設えとし、防犯面では、採光と通風を確保しつつ、プライバシーの保護と死角を作らない配慮する。また、災害時にもトイレとして機能するよう、マンホールトイレを設ける。

□ 間伐材利用に関するモデルケースの創出

⇒建材の一部に、横浜市の水源林がある山梨県道志村の間伐材を用い、水源林の整備や森林環境についての理解を広めるための一助となる取り組みの事例とする。

【南西側主園路からの視点：アプローチ】
トイレまでの動線となるスロープは、勾配が 1/20 となっており、車椅子の利用者や身体が不自由な利用者でもアプローチし易くなるように配慮している。
スロープの法面側は着座することが可能な擁壁となっており、土留めとしての機能に加えて、ベンチとして休憩施設の機能も併せ持った設えになっている。
前面の主園路は、ランニングや散歩などで通行する利用者が多いため、園内における休憩場所として機能することが期待できる。

【南西からの俯瞰：眺望・形状】
トイレの前面に設けたウッドデッキからは広場への眺望が開けており、広場を利用している人の様子が見渡せるようになっている。また、逆に広場側からトイレをみた場合には、広く面的な建築物は視界に入り易く、園内におけるランドマークとなることが期待できる。
形状としては、既存の法面に沿って緩やかに円弧を描く流れるような線形となっており、流れに沿って人の動線が集まり易くなるような心理的な効果を生み出している。

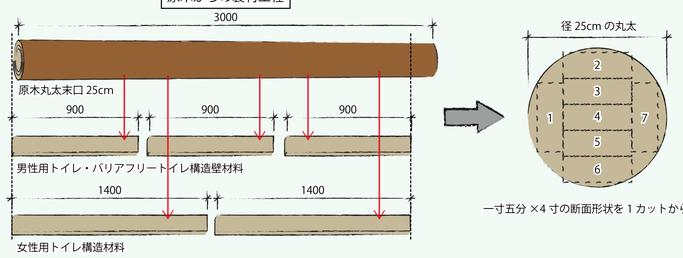
構造計画（材料について）

歩留まりのよい丸太原木の利用

- 道志村の水源林の間伐材から歩留まりよくとれる 1 寸五分 (4.545cm)×4 寸 (12.121cm) の材料を重ね合わせ、それぞれをウッドロング構造用ビスで固定し、一枚のマッシブな構造壁を構成する。原木丸太は 3mのものを想定し、今回使用する壁構造材の寸法も 3m の原木丸太から歩留まりよくとれる寸法とした。
- 材料については粗挽きのまま使うものとする。粗挽きとすることにより、多少の分の違いは生まれるが、製材所の引き直しの手間を削減し、製材コストの削減と自然な風合いを表現することが可能となる。
- 製材に掛かる手間を削減することは、近年、担い手不足となっている林業においては、重要な配慮であり、今後、森林環境譲与税や森林環境税の利用により、森林整備や木材の利活用がさらに促進されることなども考えると、材の採取と効率化の先進事例として、横浜市に留まらず、全国的な広報が期待できる。

※歩留まり：製造業など生産全般において、原料や素材の投入量に対し、実際に得られた生産数量の割合のこと。

原木からの製材工程



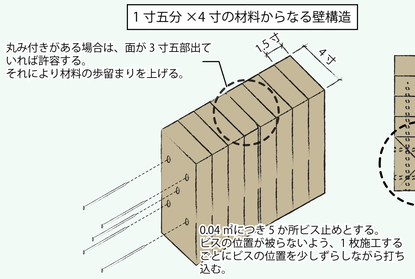
一寸五分 ×4 寸の断面形状を 1 カットから 7 枚

構造計画（壁構造について）

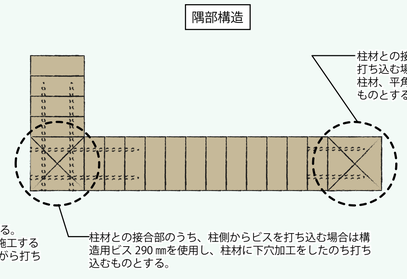
積層構造木壁

上述した粗挽きの材について、本計画においては、製材コストの削減を大きな目的としているが、最大の目的としては、低質木材の有効活用のモデルケースとすることが挙げられる。
粗挽きの材は、所謂、市場に広く出回る流通材と比較すると仕上げが粗いため、低質と判断されるが、木材としての機能については、同等の品質を持ったものである。
低質材とされるものは、一般的に主要な部分の建材として利用されることが少ないが、今後の木材の利活用の促進においてはこういった材の利用も必要になることが予想されるため、壁構造を形成できるということを表現した。今回、低質材を積層することで、壁構造を形成できるということを表現した。

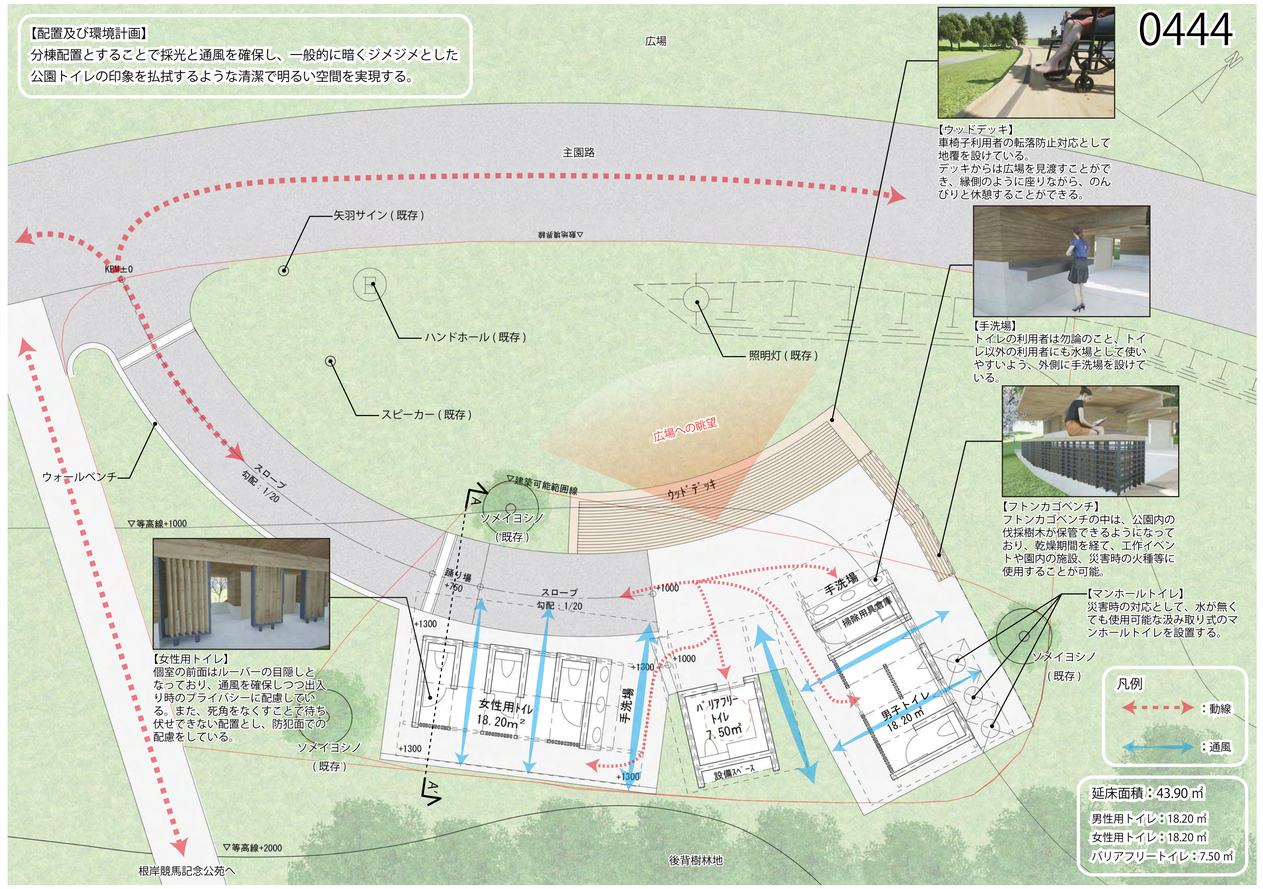
1 寸五分 ×4 寸の材料からなる壁構造



隅部構造

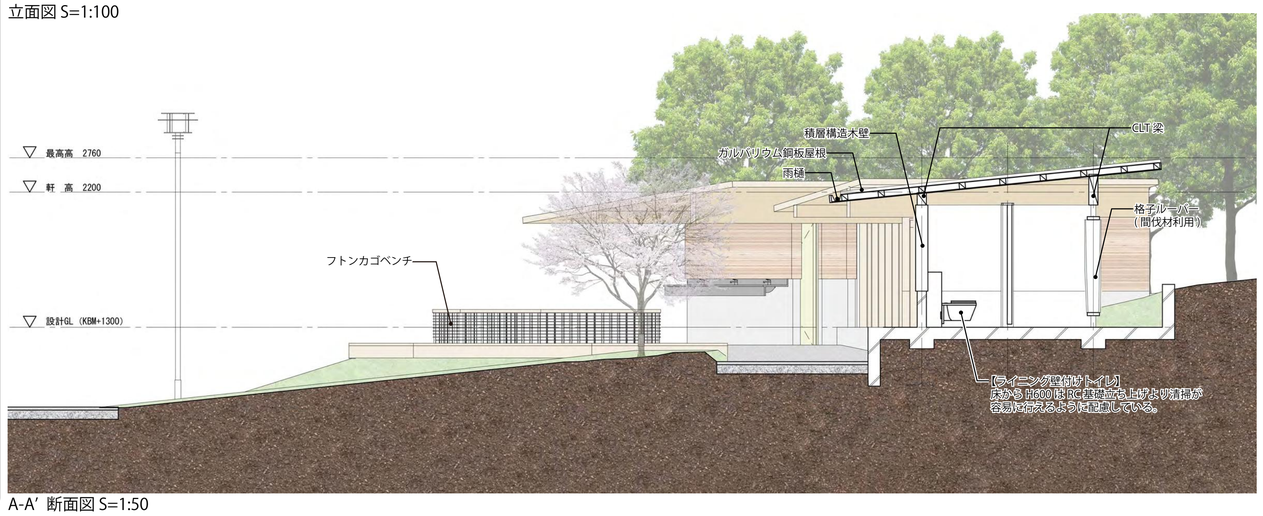


【配置及び環境計画】
分棟配置とすることで採光と通風を確保し、一般的に暗くジメジメとした公園トイレの印象を払拭するような清潔で明るい空間を実現する。



配置図兼平面図 S=1:100

立面図 S=1:100



A-A′ 断面図 S=1:50